

# 接続料の算定に関する研究会 (第3回)

2017年4月26日  
ソフトバンク株式会社

## 1. 第2回研究会の議題に対する補足

1-1. NGNのボトルネック性における課題

1-2. サービス卸(フレッツ卸)に係る課題

1-3. 帯域換算係数における課題

1-4. NGN県間伝送路

1-5. 網終端装置に関するトラヒック増対応

## 2. NGNの優先パケットの扱いについて

2-1. 優先パケット(QoS)の利用にあたっての原則

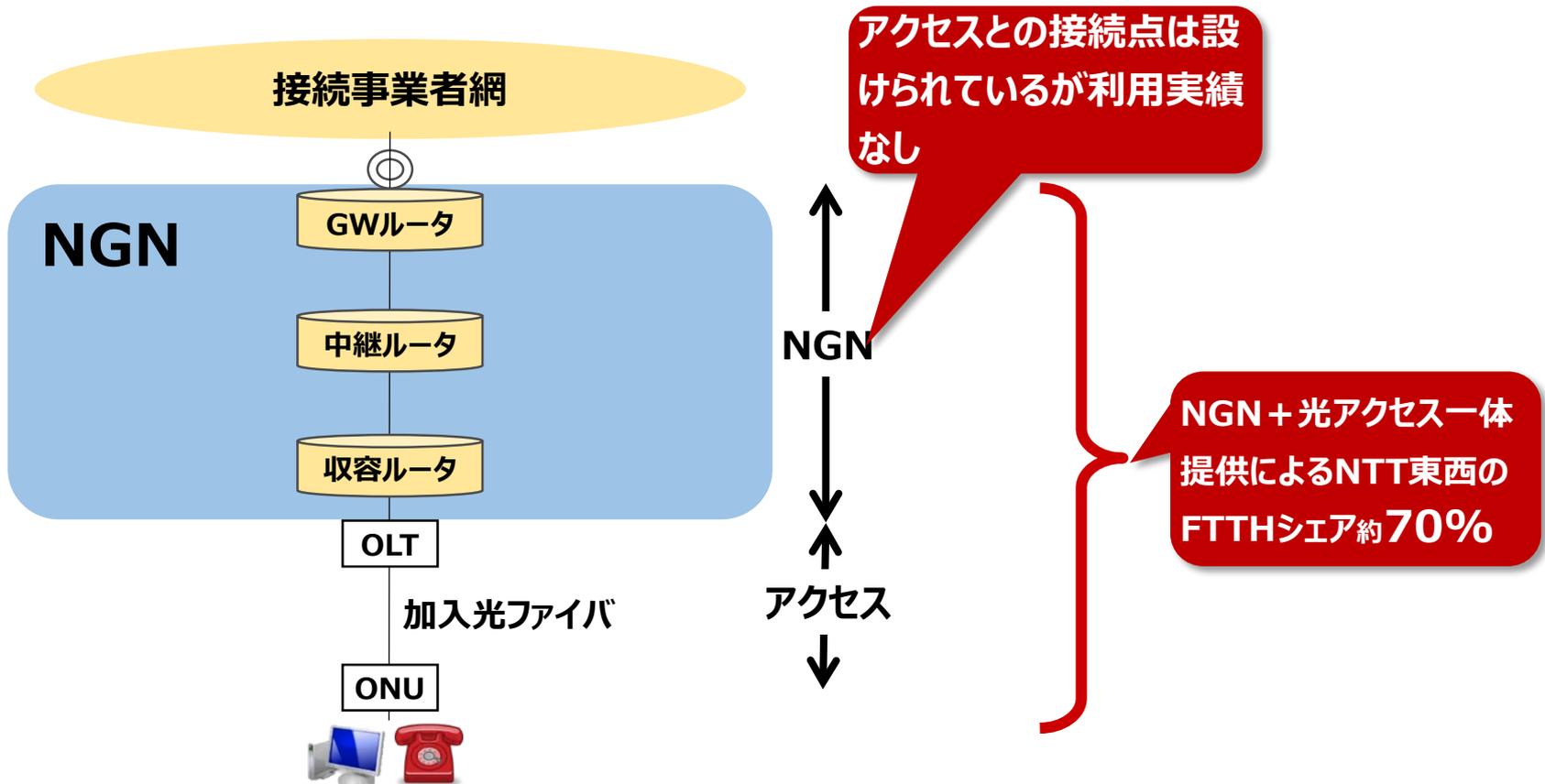
2-2. データQoS利用にあたっての課題

2-3. データQoSの利用

# 1. 第2回研究会の議題に対する補足

# 1. NGNのボトルネック性における課題

NGNは実態上**アクセス回線と一体不可分**で**ボトルネック性を有するネットワーク**であることから、**光ブロードバンドの更なる普及促進にはコストの透明性や適正性の確保が必要**

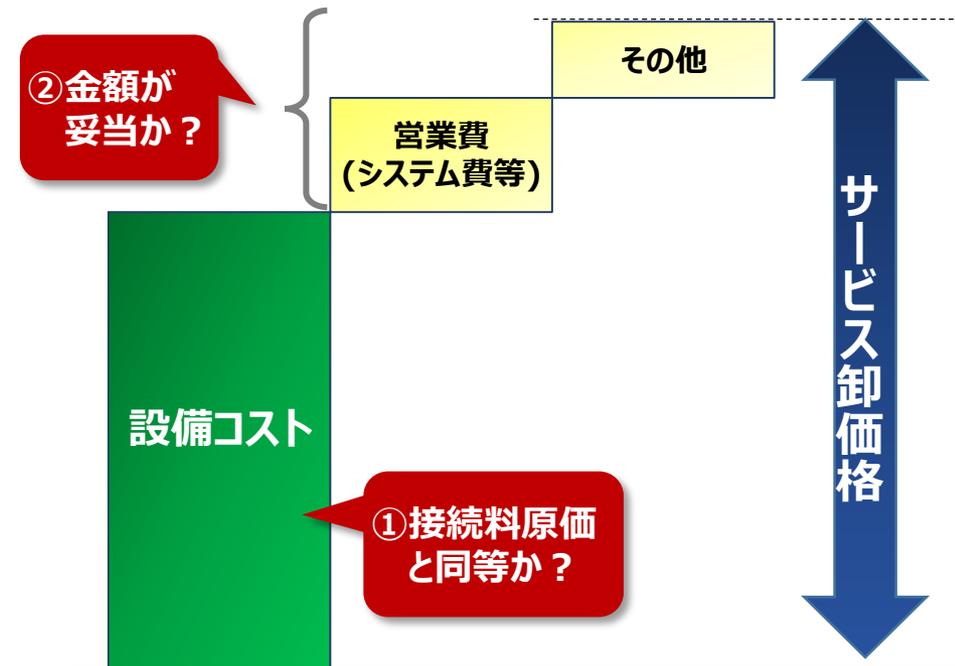
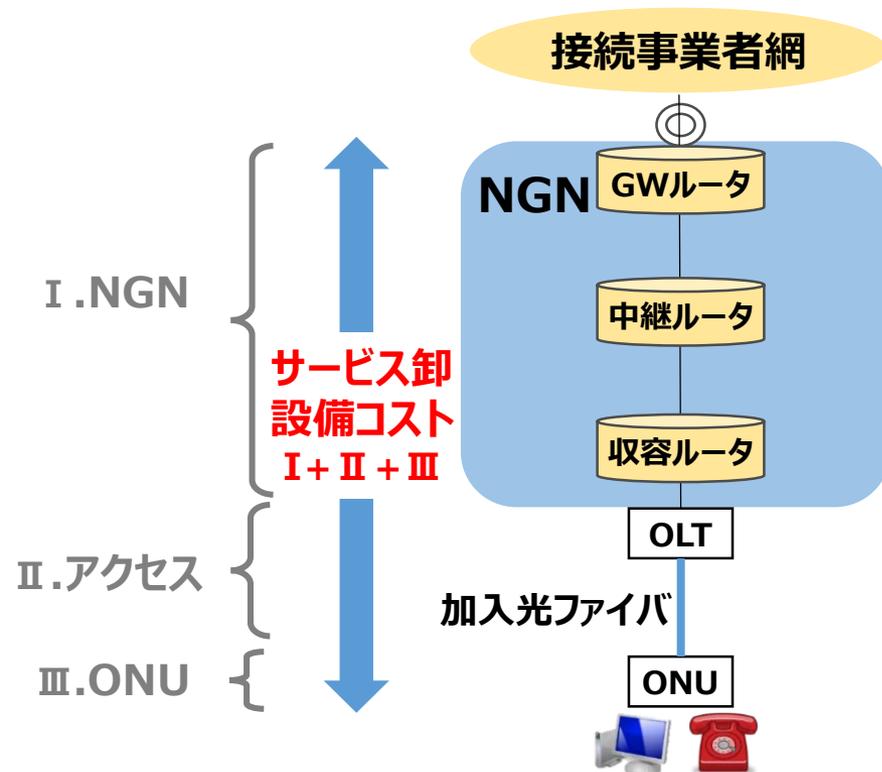


# 1-2. サービス卸(フレッツ卸)に係る課題

NGNとアクセス一体で提供されるサービス卸も同様に  
**コストの透明性や適正性の確保が必要**

<サービス卸NW構成>

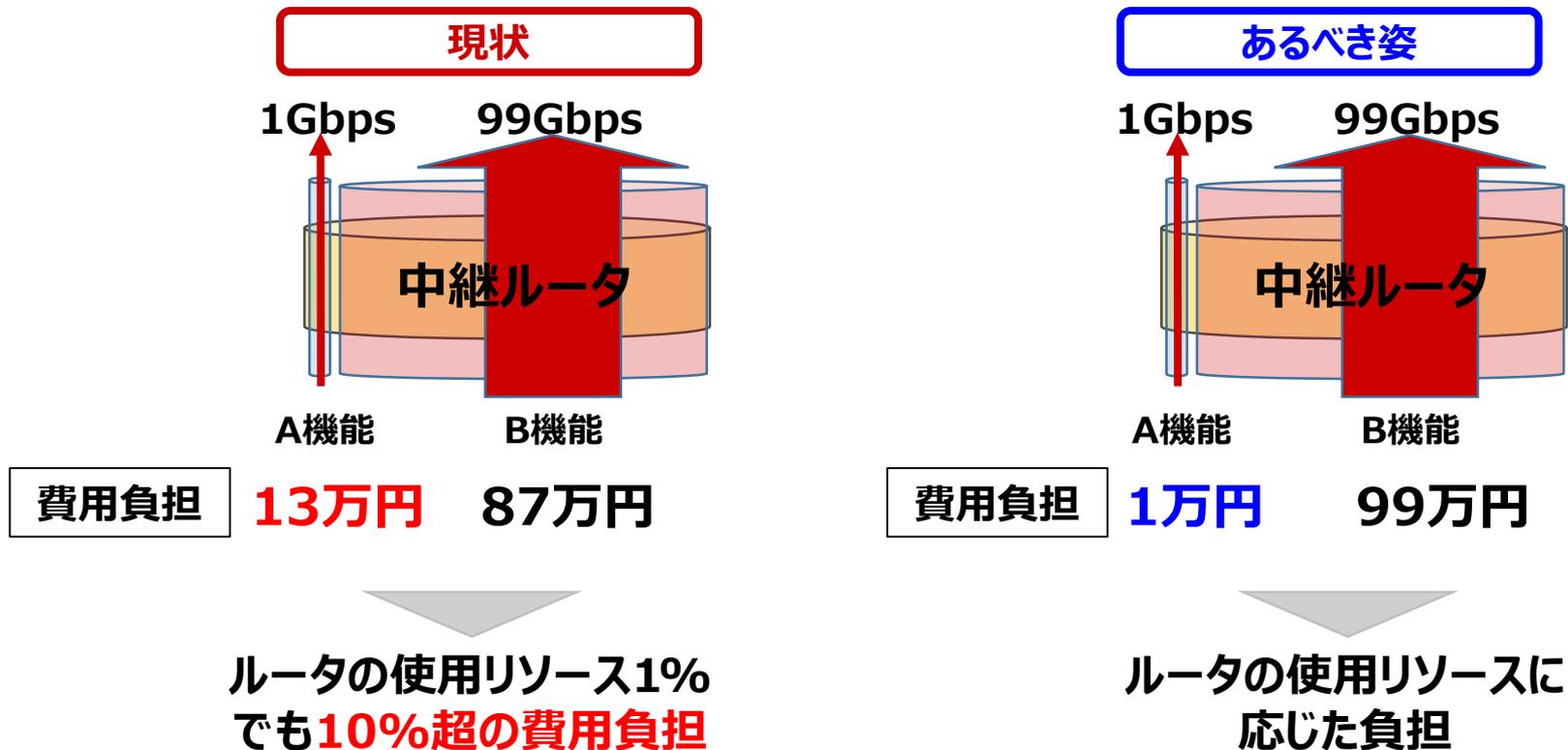
<サービス卸料金内訳(想定)>



# 1-3. 帯域換算係数における課題

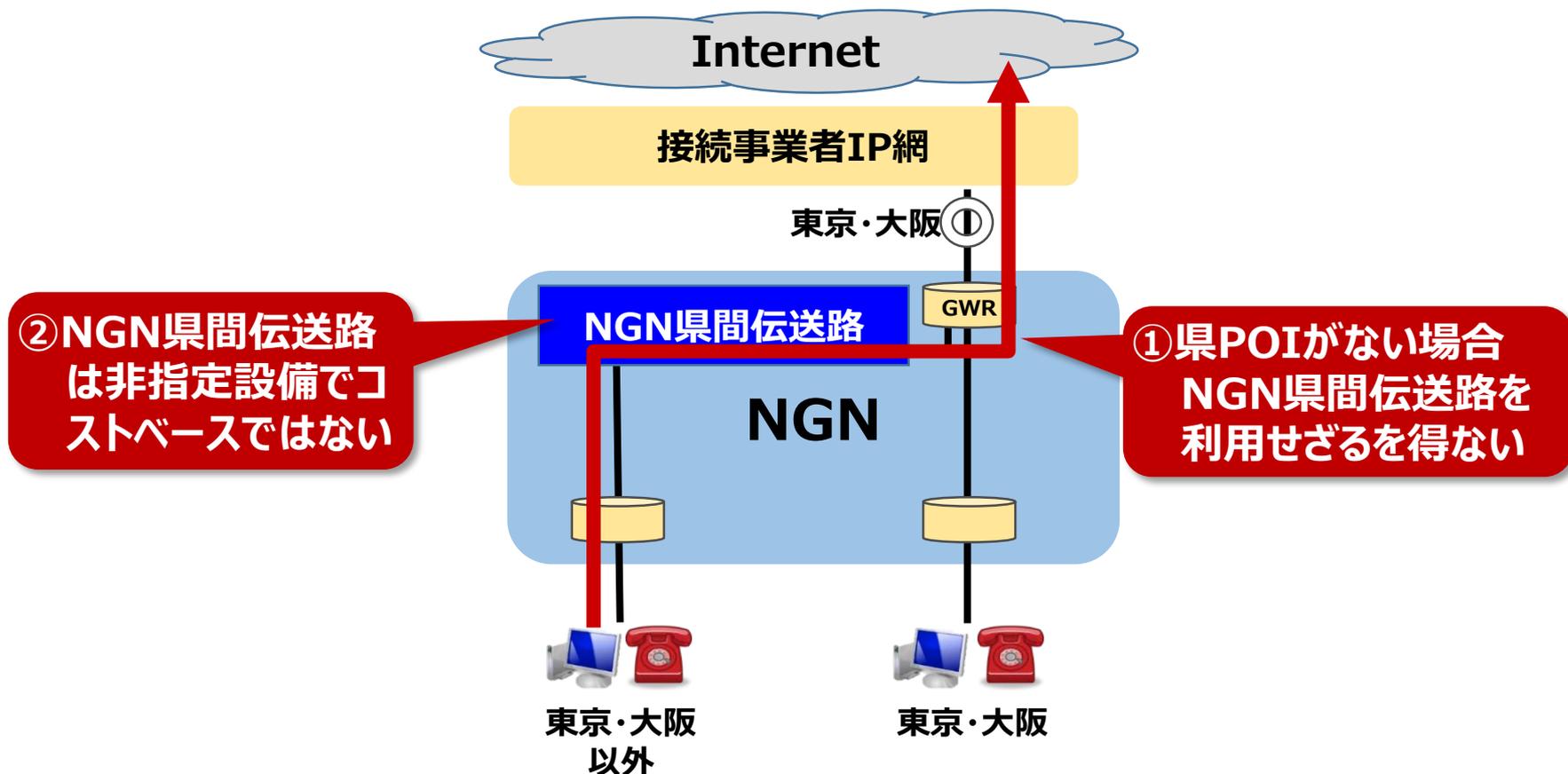
中継ルータのように、複数機能を**同一設備に収容する**場合の費用配賦は費用発生の実態に合わせて**トラフィックベースに見直すべき**

例：処理能力 100Gbps、100万円のルータ



# 1-4. NGN県間伝送路

単県POIがない現状ではNGN県間伝送路もNGNネットワークの一部として**接続に必要不可欠なボトルネック設備**でありコストの**透明性・適正性の確保が必要**



# 1-5. 網終端装置に関するトラヒック増対応

ユーザトラヒック増加に対するNTT東西の対応に関する当社考えは以下のとおり

- ① 第2回研究会において、**当社が認識していないメニューがNTT東西より提示**されたが、そのようなことがないよう料金等の提供条件を含め事業者向けホームページ等で周知すべき
- ② NTT東西が提示したメニューでも**輻輳が解消されない地域があるため**、引き続き増設基準の見直しを含む協議を要望

対応例) セッション数の更なる緩和、トラヒック基準への見直し、その他

## 2. NGNの優先パケットの扱いについて

## 2-1. 優先パケット(QoS)の利用にあたっての原則 9

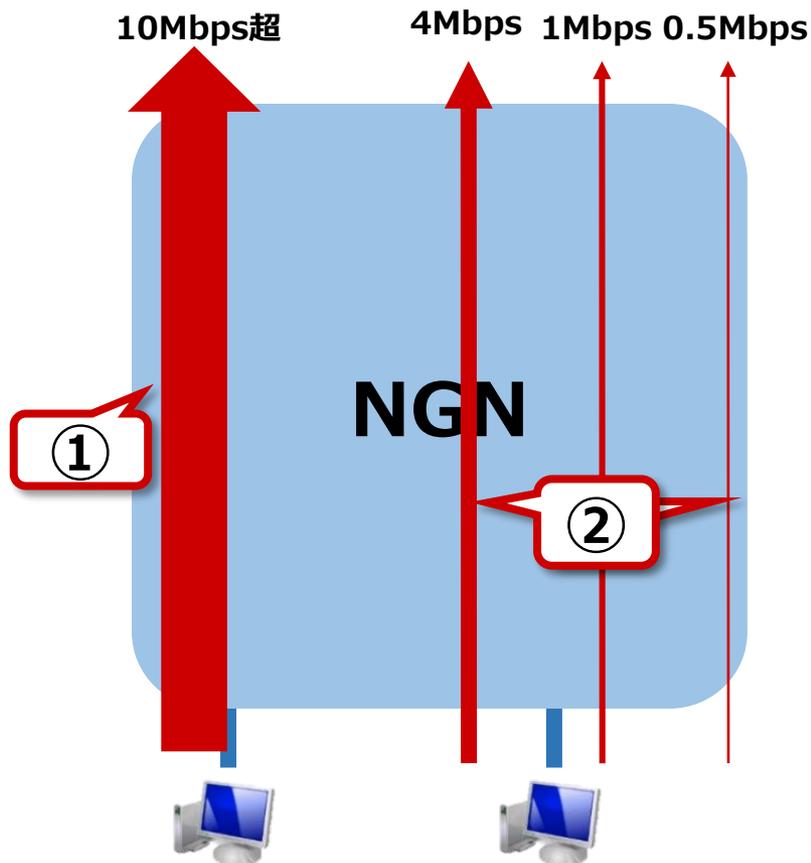
QoSの利用を促進していくにあたっては、以下の原則に沿って運用が行われることが必要

### QoS利用にあたっての原則

- ① **約款に記載のない制限・制約**をかけないこと
- ② 制限・制約をかける場合、**利用部門と接続事業者の公平性を確保**すること(最優先・高優先の利用含め)
- ③ 制限・制約事項については接続事業者との間で事前に協議し、**十分な透明性を確保**すること

## 2-2. データQoS利用にあたっての課題

音声だけでなくデータQoSについても利用を促進するため、**10Mbpsを超える広帯域メニューや多様な帯域メニュー**を事業者が利用する際の課題を明確にすべき



### 想定課題①

広帯域やバースト性で他の通信を  
圧迫

### 対応案①

需要把握と設備増設基準整理

### 想定課題②

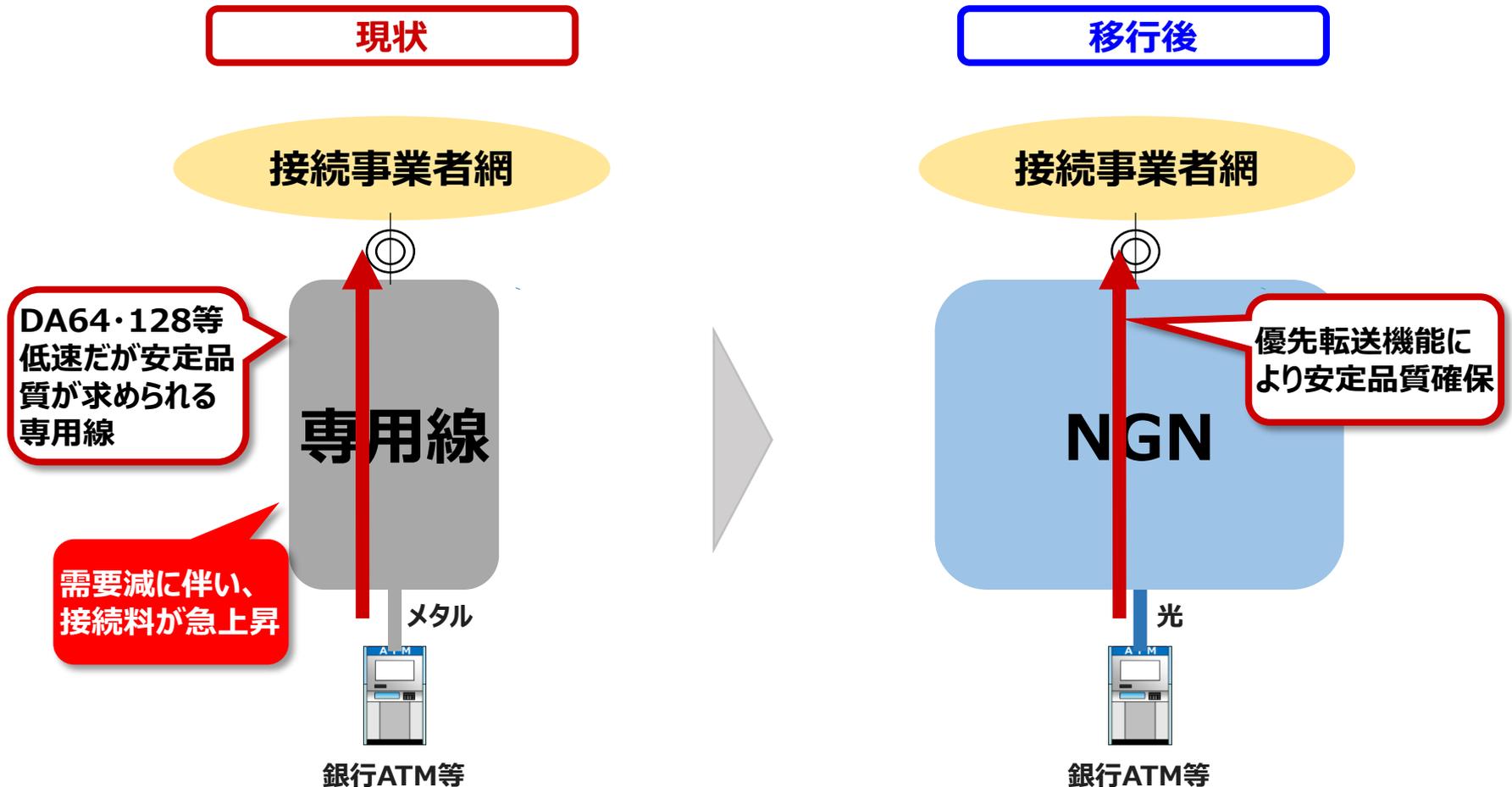
メニュー多様化による制御煩雑化

### 対応案②

事業者ニーズも踏まえ、どこまで多  
様化可能かを検討

## 2-3. データQoSの利用 [利用例1]

低速だが安定品質が求められる銀行ATM回線等 **メタルDA専用線**の代替としてデータQoSの利用を検討



## 2-3. データQoSの利用 [利用例2]

### 一部地域のVoLTE用基地局回線として10Mbps超の 広帯域データQoSの利用を検討

